

LIFE TIMES



平成23年9月1日（木）発行 【隔月（年6回）発行】

発行部署 : ソリューション営業本部ソリューション営業部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4620
発行責任者 : 白土 雄二郎
お問合せ窓口 : 古田 泰幸

第95号

【目次】

1. 小集団活動全社発表会開催される
2. 中型免許制度の施行から4年 ～トラック運送業界への影響～
3. 天然ガス自動車の普及台数増加
4. LIFE現場活動レポート Part4 「現地測定編②」
5. 場所自慢 Part2 ～第23回 松阪配送センター～
6. 「グローバル要員育成プログラム(初級)」現地研修参加レポート【第3回】
7. 最適化セミナー参加レポート

1. 小集団活動全社発表会開催される

7月15日（金）に、当社の中国支社に於いて、小集団活動全社大会を開催しました。1982年度よりスタートした本活動も今回で27回目を迎え、全社117グループの中から選ばれた7グループによって行われた発表は、どれも興味深いテーマでありました。

簡単に内容をご紹介させていただきますと、①九州支社:東日本中継便構築、②四国支社:積出機自主保全活動、③中部支社:顧客への休暇案内送付方法の効率化、④鹿島支社:事務所及び業務の5S活動、⑤東京営業部:配送センター用パレット改造による安全対策、⑥尼崎油槽所:ドラム充填 排ガス吸着塔廻りの改善、⑦中国支社:原料投入作業での日曜日出勤の削減、というもので、安全・安定荷役の継続、設備の改善や顧客サービスを含む業務の改善、RCに関するものまで、多岐にわたるテーマがありました。



白石社長(前列中央)を囲んで

そして今回も質疑応答を交えながら活発な議論が行われました。

今回は各グループが接戦でしたが、最優秀グループは中国支社の「TEAM ZERO」に決定しました。

11月に予定されている「三菱化学グループ小集団活動発表会」に当社代表として出場します。

2. 中型免許制度の施行から4年 ～トラック運送業界への影響～

2007年6月に中型免許制度が施行されてから4年が経過しました。この制度は貨物自動車の大型化に対し、運転者の技能及び知識の不足による貨物自動車の交通事故を防止するために新設されたものです。

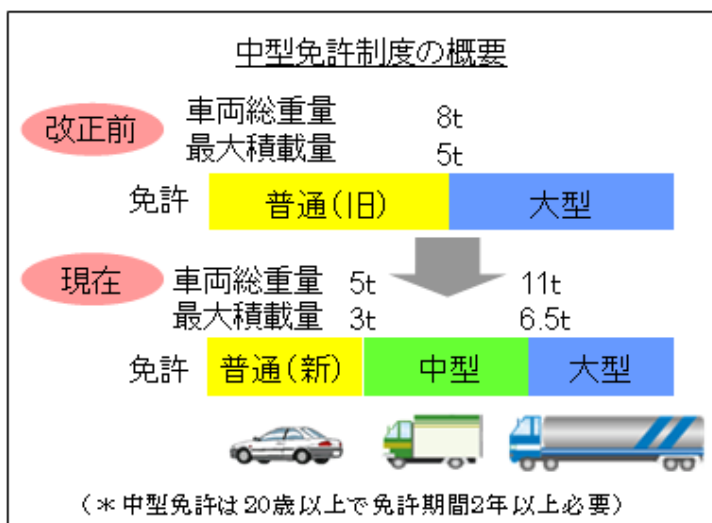
これにより車両総重量が5t以上8t未満の自動車は、普通免許での運転ができなくなりました。(※改正前に普通免許を取得している場合は、引き続き車両総重量8t未満までの自動車を運転可能です)

トラック運送業界では、この中型免許制度の導入以降、中型免許取得のために教習所に通う費用を補助したり、教習所に通うための有給休暇を与えるなどの取り組みが行われてきました。

しかしながら、人口減少・少子高齢化で若年労働者が減少する中で、新普通免許しかもたない若年層をドライバーとして採用

することがより難しくなっている状況も明らかになってきました。そのため、将来の深刻なトラックドライバー不足が懸念されています。また、事故防止の観点からすれば、車両総重量や最大積載量のみを基準とするのではなく、車両の長さ・幅・高さも考慮すべきといった声も聞かれます。

このように、トラック運送業界を中心として、中型免許制度が物流や社会全体に及ぼす影響について制度見直しを含めた議論が活発に行われており、動向が注目されています。



3. 天然ガス自動車の普及台数増加

天然ガス自動車はクリーンエネルギー天然ガスを燃料とする低公害車で、ガソリン車やディーゼル車に比べ、PM(粒子状物質)や黒煙は発生せず、二酸化炭素、窒素酸化物などの環境負荷物質の排出も少なく、最も実用的な低公害車として導入が進んでいます。

天然ガス自動車は、燃料の貯蔵方式により3種類に分類されます。 1. 圧縮天然ガス(CNG)自動車 2. 液化天然ガス(LNG)自動車 3. 吸着天然ガス(ANG)自動車 現在、世界各国で利用されている天然ガス自動車のほとんどは圧縮天然ガス自動車です。

天然ガス自動車の普及台数は、現在約47,000台となっており、1997年の2,000台に比べ23.5倍も増加しております。

増加している要因としては、「環境と人にやさしい」という事に要約されると思いますが、具体的には、

1. ガソリン、軽油と比較すると燃料自体のCO2排出量が、単位発熱量あたりで約25%少ない。
2. 大気汚染の原因となる排出ガスが少ない。
3. 騒音や振動が従来車に比べて少なく静かな走行が可能。
4. 燃費性能がガソリン車やディーゼル車に比べて優れている。

一方、天然ガス車のデメリットとしては、2点あります。

①天然ガス充填所(天然ガススタンドやエコステーションと呼ばれています)の設置箇所が全国で約300箇所と少ない。

②1回の充填での走行距離が短い。(トラックで約300km、軽自動車約200km)

上記デメリットの解消が、本格的普及へ繋がるものと思われます。



エコステーション(例)

4. LIFE現場活動レポート Part4 「現地測定編②」

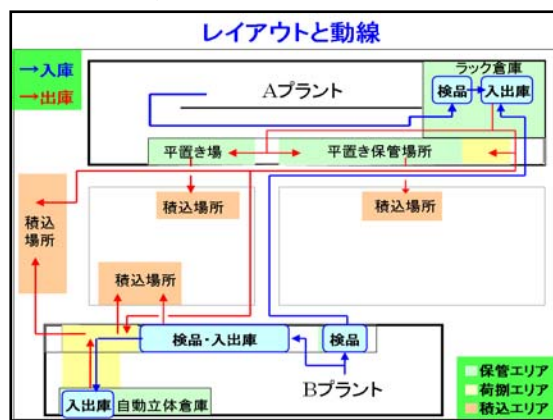
88号以降の過去3回にわたり、LIFE現場活動レポートとして「現地測定編」「データ収集・整理編」「ヒアリング編」を紹介しましたが、今回は第4回「現地測定編②」として、人ではなく機械や動線に焦点を当てた調査手法について紹介します。

当社が工場・倉庫の実情を調査する測定手法は、88号の「現地測定編」で紹介しました「作業員測定」「工程分析」が中心になっていますが、これだけで測定対象の全てを把握する事は困難です。これらは作業員に焦点を当てた測定手法であり、問題が運搬ルートやレイアウト・機器にあった場合は適切な改善策を見つけ出す事が出来ません。その為、当社では対象業務に合わせて、「運搬分析」「レイアウト分析」「機械稼働分析」などの分析手法を活用しています。

調査をしている中で、人の動きにはムダ・ロスは見当たらないが、「何故か効率的に感じない」など違和感を感じる場所があります。その時には「作業エリア全体の物の配置」「製品・原料などの保管方法」を調査したり、実際の人や荷役機器（フォークリフトなど）がどのような動きをするか調査を行い問題点を探しだしています。対象によって調査方法はいくつかありますが、当社ではこれらをまとめて「運搬分析」「レイアウト分析」と呼んでいます。

一方「機械稼働分析」は、人の調査と合わせて機械の稼働状況を調査し、どちらに問題があるのか分析したり、また複数の機械が関係している現場はどこにボトルネックがあるのか分析する場合に活用しています。

より良い提案として、お客様に興味を持っていただけるよう調査対象に合わせて、より適した分析手法を日々思案しています。現場に問題はありそうだが、どこに問題があるのかははっきりしないなどのお悩みがございましたら、解決へのお手伝いをさせていただきますので当社までご相談・ご依頼をお願い致します。



分析手法(例)

5. 場所自慢 Part2 ～ 第23回 松阪配送センター～

松阪配送センターは、2002年1月三重県松阪市上川町に開所し、カーエアコン用部品の納入代行業務をスタートしました。現在は同市立田町へ移転し、その他ベンダー数社の輸送業務も行っています。

松阪市は三重県のほぼ中央に位置し、「海」と「山」両方を領域に持ち、温暖な気候が特色です。古くは伊勢神宮の宿場町として栄えた商業の町でもあります。

この地方の観光名所としては、やはり「伊勢神宮外宮・内宮」(松阪から車で40分)が有名で、今も昔も変わることなく多くの観光客で賑わっています。足を一步参道に踏み入れれば、無数の大木から湧き出る新鮮かつ神聖な空気に包まれ、全身が浄化されていくのを体感できることでしょう。

一方、内宮に隣接する「おかげ横丁」では土産店街を歩きながら特産物に舌鼓を打ち、食欲を満たすことができます。もう少し足を伸ばして「二見夫婦岩」、さらに鳥羽まで行けば、ジュゴンやラッコをはじめとする海の動物たちと触れ合うことができる「鳥羽水族館」があります。

屋外ではペリカンなどの動物を直接接触することができるイベントが人気を博しています。お子さんやお孫さんと一緒に童心に戻ってみたいはいかがでしょうか？

ぜひ一度、歴史あるこの自然豊かな街にお越しください。



伊勢神宮



二見夫婦岩

6. 「グローバル要員育成プログラム(初級)」現地研修参加レポート【第3回】

前号まで2回にわたりご紹介させていただきました研修参加レポートですが、本号で最終回となります。今回の研修では、本当にたくさんの先輩方のお話を伺う事ができ、非常に勉強になったことは言うまでもないのですが、最後にとっても印象的なメラク(インドネシア)工場でのお話をお伝えしたいと思います。

メラク工場での懇親会の際にお話を伺ったある先輩が、研修生の私達にこう言われました。『そこに居る人達を好きになって、なんでもいいからその人達の役に立て！』大声で語られるその方は、定年後の再雇用で今現在もメラク工場のプラントを支えておられる大先輩です。私はこの言葉を聞いて、それこそがグローバルマインドそのものなのだとすることに気付かされました。

[グローバル人材(要員)]という概念は、一言で表現することが難しいように感じますが、つまるところ、どこに居てもその場所で円滑に、且つ自分らしい仕事ができる人間であることなのだと解釈し、今後の自分自身の活動指標とすることを胸に決めました。本研修を通して得た経験を活かせるよう、日々精進して参りたいと思います。



メラク工場での懇親会

7. 最適化セミナー参加レポート

当社では、以前より三菱化学社開発研究所・最適化技術チームと連携し、適正在庫ツールや物流最適化ツールを開発・運用しております。今般、ツールの基となる「最適化」について研究されているセミナーが三菱化学社水島事業所で行われましたので参加しました。

セミナー演目の一つ目は、米国グロービ・オプティマイゼーション社の共同創業者兼社長のロバート・ビクスビー博士の講演です。博士は最適化の第一人者で、最適化ソフトとして有名な「ILOG CPL EX」を開発されており、2008年には独立してグロービ社を設立されました。博士の作るソフトはこれまでのソフトに比べて高速でパフォーマンスの良い製品で、半年に1回のペースでバージョンアップを重ね進化してきました。

二つ目は、東京海洋大学の久保幹雄教授です。教授の研究分野は、サプライチェーン最適化ですが、この分野は近年、ロジスティクスに対する工学的なアプローチの必要性から、実務界において大きな注目を浴びています。教授はそのサプライ・チェーンに対して最適化を駆使したアプローチにより、実社会の様々な問題を解決すること、ならびに解決のためのアルゴリズムとシステムの作成を研究の目的とされております。

今回のセミナーの内容を全て理解することは難しいものでしたが、当社で行っているお客様のデータ分析からのムダやロスの発見と、それに対する効率化の提案だけでなく、より「工学的な見地」からの客観的な分析の必要性を感じたセミナーでした。

芝のそよ風

ソリューション部 山下 博樹

今年の夏は一時期涼しい期間がありましたが、8月に入り猛暑が戻ってきました。最近では夏になると、熱中症に関するニュースを必ずと言っていいほど耳にし、その予防策の一つとして水分補給の大切さが挙げられています。少し前(年齢的にこう感じるのか?)までは、運動中に水を飲まずに我慢する事が精神面の鍛錬になると、部活の先輩等から指導された方も多いのではないのでしょうか。今では考えられない事ですが、その当時はそれが当たり前のように考えられていました。

この様に、それまでは常識とされていた事が、必ずしも正しいとは限りません。我々も効率化を検討する際は過去の常識にとらわれず、柔軟な発想を心がけてまいります。